

科目名（英文表記）	ファイナンスⅢ（金融機関マネジメント） (Finance Ⅲ)		
科目区分	発展科目	単位数	2 単位
担当教員名	齋藤一朗	ナンバリング	MBA_E_FI 6331
研究室番号	340	研究室電話番号	27-5345
Eメール・アドレス	ichiro@res.otaru-uc.ac.jp		

**授業の内容及び方法：**次頁以降に記載

**授業の目的：**

本授業は、大括りに二部構成をとります。モジュール1～3では、金融取引の意義や金融取引に伴う諸々の困難を議論の口火切りとして、金融機関がそれらの困難を如何にして解決し資金を円滑に融通するのかを、金融機関のビジネスモデルに即して解説します。ここでは、金融機関のビジネスモデルを理解するための基本的な視座を養うことを到達目標とします。なお、モジュール1～3の授業では、初学者の履修も念頭に置きながら、主として講義形式によって進めます。

モジュール4～8では、金融機関のビジネスモデルに関わる理解を踏まえて、金融機関財務の分析（Excelのシートでフォーマットはお渡しします）やマクロ経営環境や競争環境に関する定性的な分析をケーススタディの方法によりながら行います。個別具体的な地域銀行や信用金庫を分析の俎上に載せ、収益性や健全性を財務的な側面から把握するとともに、PEST分析や業界構造分析、価値連鎖分析や競合分析、そしてSWOT分析など既習の分析フレームワークを援用して、金融機関経営の実態を把握するとともに、そこに内在する経営課題とその打開策について検討します。したがって、モジュール4～8の到達目標は、金融機関経営が直面する課題を見だし、戦略的な打開策を構想する力を涵養することに置かれます。

**使用教材：**

テキストは特に指定しません。

本科目において利用する文献ならびに各種資料・データについては、manaba上で、別途指示します。なお、授業の内容（モジュール1～3）について、予め概括的なイメージを掴んでおきたいと思う方は、さしあたり下記の文献を参照してください。

内田浩史『金融』有斐閣、2016年

村瀬英彰『金融論〔第2版〕』日本評論社、2016年ほか

（札幌サテライトに配架してあります）

**成績評価の方法：**

成績評価については、本専攻が定めた「アントレプレナーシップ専攻成績基準に関する申合せ」に則り、以下のとおり付します。

授業への参画度合い：20%（主として、授業時における発言、ディスカッションにおける貢献を以て評価します）

事前・事後の課題：80%（モジュール1～3の終了後に課す事後課題10%×3、モジュール8終了時に提出する分析レポート50%）

なお、評価に不服のある場合には、不服申立書（任意）を以て、アントレプレナーシップ専攻教務委員会委員長に申し出てください。

**履修上の注意事項：**

授業は基本的に、本シラバスの記載内容に即して進行しますが、変更・修正等の必要が生じた場合には、manaba上において、逐次お知らせします。また、特段の状況変化がない限り、授業は対面によって行います。履修を希望する学生は、あらかじめ「（アントレプレナーシップ専攻）授業の遅刻及び途中退席に関する申合せ」を読んでおいてください。